

鳥獣センター通信

【鳥獣被害対策支援センター】

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kankyo/shinrin/mfc/damagesupport/index.html>

鳥獣被害対策マイスターのための 5つの研修会を開催

鳥獣被害対策マイスターの認定研修では、県が取り組んでいる鳥獣被害対策プロジェクト推進計画、マイスターの位置付けなどの基本的施策の説明や、主要野生鳥獣の特性等の解説、初歩的な鳥獣被害防止対策の実習及び集落点検等の現地研修などを実施しており、各地域における技術指導者として踏み出す第一歩として、基礎的な知識や技術の修得を行っているところです。

マイスターの役割の中には、地域の集落や農家等から直接鳥獣被害への対処法等について相談を受けたり、集落等をまとめてくださる地域リーダーの育成等があり、地域の要として活動していただいているところです。このためマイスターの方々には、より専門的な鳥獣被害対策に関する知識が必要となりますので、鳥獣被害対策支援センターでは毎年、鳥獣対策の専門家を招へいし、レベルアップを図るための各種研修会を開催しています。

本年度開催の研修会について、その概要を紹介いたします。

研修の日程は、マイスターの方々が市町村、農協、農業共済、森林組合及び県の職員等と関係団体等も幅広いことから、業務の都合などで全ての方に受講いただけるわけはありませんが、出来る限りの日程調整を行った上で開催日を決めています。

研修コースは、昨年度と同様となりましたが、6月に電気柵対策、7月中・小型獣対策、9月に総合的対策、11月に

捕獲対策、そして最後に12月の鳥被害対策としました。

電気柵対策は、昨年度1回だったものを県南・県北に分けて2回行いました。今回の研修では、一昨年7月に静岡県で発生した電気柵の漏電事故を受けて、特に事故発生の問題点や法令遵守による取り扱い等についての話しを含めて講師に講演をお願いしました。また県南会場では、講師と同じ電気柵メーカーの日本電気さく協議会委員で広報担当の方が偶然来県されておられ、講師からの紹介もあって同事務について話しを伺う機会がありました。

中・小型獣対策は、昨年9月に日之影町及び本年2月に延岡市北川町で捕獲されたこともありアライグマをテーマに、自然環境課との共催で延岡市北川町において、その生態や生息調査の方法について埼玉農農業技術研究センターの古谷益朗氏から御指導をいただきました。その日の午後からは現地研修として集落内にある神社に移動し、爪痕などの判別事例を基に痕跡調査の方法について解説いただきました。また次の日は、高鍋町の農業科学館に場所を移し、近年農作物等への被害が目立つようになったアナグマへの対策について御指導をいただきました。総合的対策は、長崎県対馬市から一般社団法人 daidai の代表理事の谷川ももこ氏をお招きし、同市地域おこし協力隊としての経験を活かした、イノシシ、シカで鳥おこし、人おこしに奮闘される日々の活動や考え方を御紹介いただきました。

ました。獣害を獣財にするため、地域との関わりを大切にされています。また、イノシシやシカの革を使ったレザークラフト作りも体験しました。

捕獲対策は、狩猟経験の浅いわな猟狩猟免許取得者の捕獲技術向上のために自然環境課が開催する研修会との共催で、マイスターの捕獲対策への理解を深めるため、わな猟による効果的な捕獲の方法について、鳥獣保護管理調査コーディネーターでもある(株)BOINGAの取締役の市川哲生氏から、対象獣の痕跡を見極めたわなの設置場所の選定等一般的な注視点について御紹介がありました。日之影町からは、地域集落で鳥獣被害対策のために狩猟免許を取得されて年月の浅い農家等の参加もあり、講師への質問も多くなりました。

鳥被害対策は、キャベツへのヒヨドリ の食害防止対策に苦慮されている農家の協力のもとキャベツ畑をお借りして、農研機構中央農業研究センターの山口恭弘氏の指導を受けながら、広めの防鳥ネットを使った実習等を行いました。

このレベルアップ研修では、受講者に対するアンケート調査を実施しており、研修内容に対する要望等を伺っているところです。各地域の多様な鳥獣被害に対応するために様々な分野の専門的・実務的な研修の実施を希望されていますので、鳥獣被害対策支援センターにおいても、多様な研修実施を心掛けていきたいと思っております。多くのマイスターの参加をお願いします。

被害対策に関する問合せ

西臼杵支庁及び各農林振興局
各市町村・各農協・各森林組合 等

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

東臼杵（南部）地域

鳥獣被害対策を地域ぐるみで取り組んでいる集落活動について紹介します。

まず、日向市長崎集落は、シカの被害が多く、鳥獣被害対策の先進地研修を通して、電気柵を使った低コスト防止柵の実証を行い、女性リーダーを中心に活動しています。

具体的な活動内容は、次のとおりです。

- ①集落リーダー5名選定
 - ②集落住民と関係機関による現地調査
 - ③集落リーダー会
 - ④全体研修会（展示ほ設置）
 - ⑤現状把握のための被害マップ作成
- 現在、研修会等を通じて取り組んでいます。今後、集落全体の理解が深まり、女性リーダーを中心とした活動モデルの醸成が期待されます。



全体研修会（長崎集落）

次に、美郷町小黒木集落は、イノシシ・シカの被害が多く、国の交付金を活用し、侵入防止柵の整備等が進められています。

また、同時に集落環境の改善を図り、守れる集落づくりを推進するため、地区の猟友会と連携した活動を行っています。

具体的な活動内容は、次のとおりです。

- ①関係機関による対策の進め方検討
 - ②集落リーダー7名選定
 - ③集落点検（被害マップ作成）
 - ④集落研修会（電気柵設置・管理方法、小動物対策）
 - ⑤先進地研修
 - ⑥アンケート（被害状況把握）
- 現在、対策の進め方について、集落リーダーと関係機関で検討しています。自主的な防護柵点検や捕獲対策等、集落ぐるみの活動モデルとして期待されています。



集落研修会（小黒木集落）

北諸県地域

●モデル集落「田辺集落」のこれまでとこれから

田辺集落は、旧高城町の中山間の集落で、以前から、サルによる鳥獣被害が発生する地域で、平成二十三年度にモデル集落の認定を受け、活動を開始しました。

地域住民は、深刻なサル被害に頭を悩ませていたものの、何をしたらいいのかわからず、放置された状態でしたが、モデル集落となつてすぐに開催されたモンキー座談会を契機に、前向きな取組へと進み始めました。

田辺集落の鳥獣対策活動は、月一回開催される役員会で年間計画に基づき実行され、集落内の環境整備や集落点検、七月頃にはサルの追い上げ活動を行っています。

また、定期的に発行するサル新聞も鳥獣対策を行う上で大いに役立っています。この新聞を見ることにより、自分たちの取組が目に見えるものとなる上、今後、どのようなことに注意すれば良いのかを気づかせてくれるからです。

このような活動の結果、集落住民の意識が高まり、集落内でサルを見かけたら花火で追い払う等の「自分たちの集落は自分たちで守る」取組が実践できる集落となってきました。

モデル集落活動を進める中で、いくつかの大きな出来事もありました。

平成二十五年には、みやざきサルサミットを開催し、県内のモデル集落との交流を深め、また、二十七年には、隣接する雁寺、八久保集落まで活動の輪を広げ、鳥獣対策を実践する集落として「いきいき集落」の認定を受け、積極的に活動を進めています。

田辺集落は、認定を受けてから今年で五年を経過しますが、一つの区切りとして、今年度いっぱい行政支援を卒業し、自立した活動を目指しています。卒業に当たって、二月に開催した北諸県地域リーダー研修会でこれまでの活動の事例報告を行いました。

今後は、地元主導による鳥獣対策の充実が期待されます。



リーダー研修会での事例発表